

# Wesley Hall News

46

Christ the Lord Is Risen Today

Charles Wesley, 1729, alt.



CHARLES WESLEY  
1707 ~ 1788

Considered  
the World's Greatest Writer  
of Hymns

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13~16節より)

No. 93

2007.10.1.

説教「黄金律」 .....	小澤 淳一	2
●チャールズ・ウェスレー生誕300年 .....	馬淵 彰	4
●主なメソジスト系の学校 .....		6
●「地の塩、世の光」信仰と共に社会を生きて .....	池田 守男	8
●キリスト教学校後継者養成プロジェクト .....	嶋田 順好	9
●おーる あおやま あーとてん 2007 .....	伊藤 勝啓	10
●キリスト教図書紹介「現場からの道」 .....	堀 一人	11
●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その20 .....	氣賀 健生	12
●私の教会 カトリック戸塚教会 .....	増田為久子	14
●宗教センターだより .....		15

## 説 教

# 「 黄 金 律 」

マタイによる福音書7章12節



小澤 淳一

初等部宗教主任

青山学院は今年、133年を迎えますが、初等部は今年70周年の記念の年を迎えます。1937年4月に青山学院小学財団を設立し「青山学院緑岡小学校」を開設しました。その後、1946年に「青山学院初等部」と改称し、現在に至ります。この時、私財を投げ打って小学校創設に尽力し、初代校長（部長）に就任されたのが米山梅吉です。

当時から現在に至るまで、毎週月曜日の礼拝は部長（校長）が奨励をします。初代校長の米山先生も、毎週子どもたちの前に立ち、話しました。その時に米山先生は、毎回同じ聖書の箇所を取り上げたそうです。その箇所というのが、マタイによる福音書7章12節です。この聖句は、現在の初等部も大事にしているものです。

\* \* \*

このマタイによる福音書7章12節は、「黄金律」と呼ばれる御言葉です。「黄金律」という言葉を辞書で調べてみますと「キリスト教倫理の原理。マタイによる福音書7章12節を指す」（広辞苑）とあります。これはキリスト教世界で人間が生きていく上で、黄金のごとく大切であるという教訓であるといえます。

人間の長い思想史の中で、イエス以前に、これと似た言葉を語った人々があります。ギリシャの哲学者、あるいはユダヤの教師たちの言葉の中に見られます。例えば、タルムードに記

されている次のような逸話があります。ある時、一人の異邦人がラビ・シャンマイ（紀元前30年頃）の元に来て、自分が片脚で立っている間に律法の全体を教えて、自分をユダヤ教に改宗した者として受け入れてほしいと願ったところ、シャンマイは物差しをふるって彼を追い出していました。そこで彼はヒレル（紀元前20年頃）のもとへ行き、同じ願いを述べたところ、ヒレルは彼に、「自分にとって嫌なことは他人にするな。律法の全体はこれであって、他はその説明である。行って学べ」と答えました。

一見似たものではありませんが、明らかに違うことは、「～するな」と語られていることです。私たちも同じようなことを口にする場合があります。例えば、子どもを叱って、「自分が人からそうされたら嫌だと思うようなことを、人にはするんじゃない。そんなことをされたら、お前だって、嫌だと思うだろう、そういうことを人にしてはいけない」という知恵を語ろうとするのではないのでしょうか。今でも、公共の場でも耳にする言葉です。

このような「～するな」という言い方は、行動を促すものとはなりにくい傾向にあると思います。嫌だと思われることをするとなると、何もやらない方が、まだだということになる可能性があります。

これに対し主イエスは、積極的なことを語り

ます。されたら困ることを人にしてはいけない、すなわちお互いに傷つけ合うことがないようにとって消極的になっていたのでは、人生は形成されないというのです。そうではなくて、自分がこうしてほしいと思うことを、自分から人のために、してあげたらよいと語るのです。そのような積極的な生き方を教えられたという点に、主イエスの独自性があります。

これはある意味では、常識的なことと思われる方もいると思います。人にしてほしいと思うことを人にしてあげるといのは、「思いやり」という日本語で表現されることです。しかし、このように常識的なことを主イエスが語ってくださることに深い意味を思わせられるのです。

12 節の最初は「だから」という言葉ではじめられます。大切な発言をする気持ちの現れという研究者もいます。この 12 節は、7～11 節とともに一つの段落になっています。しかし、そこだけに関わる言葉ではないのです。マタイによる福音書 5 章から始まる「山上の説教」全体の結論といえることができます。ここで、主イエスが言われることは、要するにどういうことでしょうか。

人にしてほしいと思うことを人にしてあげること、そのこと一つがきちんと身に付けば「山上の説教」の教え全体を生きるのに大切な鍵を手にすることができるというのです。主イエスの教えに従って生きるコツがここで語られているのです。私たちは「山上の説教」はすばらしい教えだと思いながらも、どこかで実行するのは不可能な教えだと思っているところがあるかも知れませんが、主イエスが語られたことにはどのような意味があるのでしょうか。

新約聖書の原語、ギリシャ語でこのテキストを読んでみますと、「あなたがあの人に、今、こうしてほしいと思うことがある。その時、そこで、その思ったすべてのことをすぐにその人

にしてあげなさい」ということになります。

私たちの日常の中で、人にしてほしいと思う「時」とはどんな時でしょうか。例えば、つらい時、悲しい時、苦しみが続いている時、そういう時に人にしてほしいという要求が強くなります。その時に、誰かが声をかけ、要求通りにしてくれると、ありがたいと思うのです。助けを求め、慰めを求め、要求があふれてくる時。自分は疲れ果て、傷つき、誰かに何かをしてほしいと思っている。そのような時には、何もしていないことを当然の権利として許されると周りの人に期待する思いがあります。まさに、その時に、自分の要求を突きつけ、それを押し通すだけでよいのかと、主イエスは言われるのです。相手も、そうやってほしいと思っていることを思いやれないかと問われているのです。

このテキストの少し前、マタイによる福音書 7 章 7 節に「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」という聖句があります。その前には、「人を裁くな」という小見出しがあります。欠けたところがたくさんある者に「求めなさい」と言われるのです。そして、欠けているところが多いからこそ、人から何をしてもらいたいたいが、よく分かる。何が本当にうれしいかがよく分かる者だからこそ、他者のためにも、心を配ることができると、主イエスは言われるのです。

「受けるより与える方が幸いである」(使徒言行録 20 : 35) という言葉があるように、完璧でない自分、欠けている自分に打ち勝つ道は、与えることよりほかにないと主イエスは言われます。

主イエスの十字架の出来事で赦され、神との垂直の関係が回復した者として、人間同士の水平の関係においても、積極的に生きる歩みをしたいものです。

# チャールズ・ウェスレー 生誕300年



馬 淵 彰

大学非常勤講師 日本大学准教授

もしチャールズ・ウェスレー (Charles Wesley : 1707 ~ 1788) がいなかったら、青山学院もなかったかもしれません。今年は、彼の生誕 300 周年です。世界各地で記念行事が開催されています。

チャールズは、1707 年 12 月 18 日、英国国教会司祭サムエルとスザンナの 19 番目の子どもとして、イギリス・リンカンシャーの小さな田舎町エプワースに生まれました。

詩人でもあった父の影響で、子ども時代、チャールズは兄や姉などとともに詩を書いて遊んでいます。後の詩人チャールズの出発点はここにあります。

チャールズが生まれた頃のウェスレー家は、経済的には恵まれていませんでした。しかし、ピューリタンの富裕な家庭に生まれ育ち知性豊かであった母スザンナによって、厳しくも愛情豊かな指導の中でチャールズは大切に育てられます。

8 才の時、チャールズはロンドンのウェストミンスター・スクールに入学し、『ハリー・ポッター』のハリーやハーマイオニーのように家を離れ寄宿生活をはじめます。ハリーは学校で「魔法」を学びますが、チャールズはどのようなことを学んだのでしょうか。

当時のウェストミンスター・スクールの教育は、「教養」に重点を置いていました。それは、千何百年もの長い時を通じて古代ギリシアやローマからヨーロッパへと伝わってきた教育の伝統です。「何にも縛られない、自由な人間にふさわしい学び」が「教養」で、その学びによって心を耕し豊かな人間精神を育てます。

チャールズは、文法や修辞学、論理学のお手本として、ホラティウスやウエルギリウスなど古代をはじめ、あらゆる時代の文筆家たちの優れた作品を通して「教養」を叩き込まれます。こ

れによって、チャールズは「言葉」を巧みに操り、あらゆることを表現し、人々の心の琴線にふれ人を動かすことのできる「術」を自分のものとするに成功します。後のチャールズは、英雄詩体二行連句 (heroic couplet) の書簡体詩で知人に手紙を書いたり、シェークスピアやミルトン、ドライデンなどの文学作品の引喩を自由に使いこなしたりしています。チャールズは、生涯を通じて 9,000 もの詩をつくりました。単純計算で、三日間に 1 つぐらいの割合で作詩していたこととなります。

1726 年、チャールズはオックスフォード大学の名門クライスト・チャーチ・カレッジへ進学します。皆さんも、このカレッジの一部を見たことがあるかもしれません。映画『ハリー・ポッター』のいくつかのシーンはこのカレッジで撮影されています。

チャールズは、子どもの頃の躰によって信仰への真剣な姿勢も培われていました。大学生時代、彼は信仰書の読書会のためにクラブ (サークル) をつくります (1729 年 3 月)。他の大学生たちから「生真面目すぎるなあ」とからかわれますが、その時につけられたあだ名が「メソジスト」です。

クラブ設立後しばらくしてから、英国国教会司祭かつオックスフォード大学教員であった兄ジョンが、クラブ顧問となります。十年後には、「メソジスト」の名のもとに一大宗教運動が急成長しますが、主導権は兄に奪われてしまいます。「どの世界も弟は損だなあ」という気もしますが……。特にジョンは「弟は常に兄の指導に従うべし！」との考えが強かったようです。チャールズは、そのことに時々不平を漏らしています。しかし、彼には自分こそが「最初のメソジスト」との自負があり、兄ジョンの行き過ぎや問題点などに手加減せずに批判できるキー・パーソン

として活躍していきます。他のメソジスト・メンバーからも頼りにされました。

1738年5月21日、チャールズは宗教改革者ルターの書物に影響され、神の愛を個人的に知るという回心（信仰体験）をします。すでに1735年に英国国教会司祭となっていましたが、それまでの彼にはこのような体験はなかったようです（兄ジョンの回心は、三日後の5月24日：青山学院のウェスレー回心記念日）。回心直後から、「神との平和・愛」の確証によって彼の心を変えていく不思議な神の御業を、詩人としての自分の「術」を使って紙の上に書きとめようと試みます。

若い頃のチャールズは、ハンサムでチャーミングでもあり、だいぶ女性にもてたようです。チャールズは、ウェールズ地方の裕福な地主である上流社会の女性サラに熱烈な恋心を抱き、1749年に結婚します（チャールズ41歳、サラ22歳）。二人は互いへの豊かな愛情を絶やさず、幸せな夫婦生活を送ります。

二人の間には8人の子供が生まれますが、成人まで生きられたのは3人だけです。長男ジョンを一歳で天然痘によって喪ったチャールズは深く悲しましました。天然痘はサラにも襲いかかり、若い妻の顔を傷つけ美しい声も奪いました。二人の男の子チャーリーとサムエルは、王や貴族の前で演奏するなど、ともに音楽の才能を発揮します。娘サリーには「ロンドンで一番可愛い子猫」を買い与えようとしたほど、チャール

ズは愛情を注ぎます。それらの彼の人生の悲しみも喜びも、またイギリスの政治や社会への彼の憂いも、「神の愛」の視点が失われずに、詩として紙に書き留められていきました。

チャールズの膨大な詩は、兄ジョンの手により、メソジスト派讃美歌集として編纂されていきます。「教養」による確かな人間理解と言語表現、「神の愛」をベースにしているチャールズの詩に、ジョンはキリスト者の信仰生活の手引きとしての価値を認めます。チャールズの詩の一語一語は、人生の浮き沈みや社会への不安を経験しつつも神の愛のなかを安らかに歩みたいと願う何万もの人々に、たどるべき道筋を示し、ともに同じ道を歩む友としての結束力を与えていったのです。

今日では、チャールズの名はメソジスト派創始者として有名な兄ジョンの名の影に隠れています。しかし、彼の存在なくして初期メソジスト運動の始まりや広がりはありません。また、メソジスト派によって設立された青山学院の存在も……。

チャールズの時代の英語は時代遅れとなり、人々の讃美歌の好みも変わり、現在、チャールズの詩は僅かしか歌い継がれていません。しかし、豊かな人間精神を培う「教養」教育と個々人に力を与える「神の愛」という二つの要素を結合させて人間形成を試みるという点で、チャールズが踏み入ったのと同じ世界への扉がこの青山学院でも確かに開かれ続けています。

## メソジスト教会について

大学宗教主任 高砂民宣

青山キャンパス正門脇にはジョン・ウェスレーの像が聳え立っています。ウェスレーこそ、メソジスト教会の祖となった人です。彼の像の下には、次のような言葉が刻まれています。

“*JOHN WESLEY PREACHES LOVE and PEACE in CHRIST for the WORLD.*”

この言葉にも明白に表現されているように、ウェスレーはキリストにある愛と平和を、全世界に向かって宣べ伝えました。彼はまた、「世界は我が教区」という言葉も遺しています。特定の教区や階級に囚われることなく、全ての人々に伝道するというウェスレーの熱い思いが伝わってきます。

最近、日本において「格差社会」という言葉を頻繁に聞くようになりました。ウェスレーが生き

た時代の英国でも、産業革命の影響により、富める者と貧しい者とが二分されるような状況が生じていました。そうした中でウェスレーは、「神を愛し、隣人に仕える」という福音の根本精神に立ち、貧困者と共に歩みました。主に労働者や下層中産階級の人々が魅了され、ウェスレーが死去するまでに、7万人を超えるメソジスト会員が誕生したと言われます。

ウェスレーによるアメリカ・ジョージア州での伝道活動は失敗だったと言われます。しかし彼の死後、メソジスト教会は特にアメリカにおいて大きな発展を遂げ、日本でもプロテスタントの三大教派の一つとなりました。メソジストの宣教師たちは来日して活発な伝道を各地で行い、青山学院や関西学院等、多くの学校を建てました。現在、世界中にあるメソジスト教会に所属する信徒の総数は、7500万人を超えています。

# 主なメソジスト系の学校

今回は、チャールズ・ウェスレーの生誕 300 年に因んで、キリスト教学校教育同盟に加盟している 102 法人のうちより、メソジスト教会の教派的背景をもつ主な学校を紹介することにしたしましょう。

薄青部分は旧米国メソジスト監督教会、薄黄部分は旧米国メソジスト南部教会、薄橙部分は旧カナダ・メソジスト教会との関わりをもって設立された学校です。いずれも 1870～80 年代の創立で、近現代の日本社会や文化、そしてキリスト教界に大きな影響を及ぼし、多くの社会や教会のリーダーを生み出してきました。

## 遺愛学院 (北海道函館市、創基 1874 年)



**学校標語** 信仰・犠牲・奉仕

**沿革** 1874 年 1 月、米国・メソジスト教会から派遣された宣教師 M. C. ハリスが夫人とともに函館へ来た。その年に「日々学校」を開校するが、本格的な女子教育の場の必要性を痛感したハリス夫人はアメリカの機関紙にその旨を書き送った。それを読んだカロライン・ライト夫人は心を動かされ、亡き愛する娘のために蓄えていた当時の 1800 ドルを函館の女子教育のために献げた。この二人の婦人の願いが実り 1882 年に文部省認可の女学校として元町に開校された。

**設置学校** 高等学校、中学校、幼稚園

## 弘前学院 (青森県弘前市、創立 1886 年)



**学校標語** 畏神愛人

**沿革** 1886 年、本多庸一により青森県における最初のキリスト教信仰に基づく女子普通教育の学校「来徳女学校（現聖愛高等学校）」として創設された。1950 年に短期大学、1971 年に大学文学部が開設され、1999 年短期大学を発展的改組転換し大学社会福祉学部とし、2003 年大学院社会福祉学研究科、2005 年大学看護学部、大学院文学研究科を開設した。2006 年には中学校を開設し、現在に至っている。

**設置学校** 大学、聖愛高等学校、聖愛中学校

## 東奥義塾 (青森県弘前市、創立 1872 年)



**学校標語** 敬神愛人

**沿革** 津軽藩・藩校稽古館を母体とし、1872 年開学。創立当初はキリスト教主義学校ではなかったが、開学当初よりメソジスト派の宣教師を招き英語教育に力を入れる。後に宣教師ジョン・イングと本多庸一が中心になり、弘前教会を創設。以後、廃校の時代を経て、1922 年、笹森順造を中心に再興。この時点より正式にキリスト教主義を掲げ、今日に至っている。

**設置学校** 高等学校

## 青山学院 (東京都渋谷区、創立 1874 年)



**学校標語** 地の塩、世の光

**沿革** 青山学院の歴史は、津田仙はじめ、のちにキリスト者となる日本人の協力を得て創立された 3 つの学校にさかのぼることができる。スクーンメーカーによる女子小学校 (1874 年)、ソーパーによる耕教学舎 (1878 年)、マクレイによる美會神学校 (1879 年) である。これらを源流とする諸学校が合同し、男女の教育機関としての青山学院となったのは 1927 年のことである。

**設置学校** 大学、女子短期大学、高等部、中等部、初等部、幼稚園

## 福岡女学院 (福岡県福岡市、創立 1885 年)



**学校標語** イエス・キリストにつながれて、愛をもって神を畏れ、隣人と共に生き、豊かに実を結ぶ人間。

**沿革** 米国メソジスト監督教会婦人外国伝道会宣教師ジェニー M. ギールにより創立。それまで顧みられなかった女子教育を開拓し、キリスト教を基盤とする人格陶冶を重んじ、変動する社会にも常に貢献できるように新しい教育分野を開き続けながら 120 余年に及んでいる。

**設置学校** 大学、高等学校、中学校、幼稚園

## 鎮西学院 (長崎県諫早市、創立 1881 年)

**学校標語** 神を敬い、人を愛す

**沿革** 北米メソジスト教会から派遣された C.S. ロング博士によって、長崎市東山手に創立された加伯利英和学校（カプリシーセミナー）を母体とする。1906 年、鎮西学院と改称。1946 年、原爆による被害のため諫早市へ移転。現在に至るまで多くの学生を世に送り出してきた。

**設置学校** 長崎ウエスレヤン大学、高等学校、幼稚園

## 活水学院 (長崎県長崎市、創立 1879 年)



**学校標語** 知恵と生命との泉一主  
イエス・キリストに掬べよ

**沿革** 1879 年、米国婦人宣教師エリザベス・ラッセル女史の志により創立。以来、キリスト教教育のもと人としての豊かな心を養い、歩み続けて 120 余年。大切な伝統を礎に、地域や国際社会の発展に貢献する女性の育成に努めながら、新たな未来へと向かっている。

**設置学校** 女子大学、高等学校、中学校

## 啓明学院 (兵庫県神戸市、創立 1886 年)



**学校標語** 手と心は神と人に奉仕  
するために鍛えられる

**沿革** J.W. ランバス、W.R. ランバス親子によって創設されたパルモア学院に起源をもつ。1923 年、女子部を独立させ、C.G. ハランド女史を初代院長としてパルモア女子英学院が誕生。1940 年、校名を啓明女学院と改称。そして 2002 年、ランバスファミリーの精神を継ぐ中高一貫校として、啓明学院が誕生。「啓明」とは、明けの明星・金星を意味し、薄明の中に輝く星のように、世の光となって輝いてほしいという願いが込められている。

**設置学校** 高等学校、中学校

## 広島女学院 (広島県広島市、創立 1886 年)



**学校標語** 我らは神と共に働く者なり

**沿革** 1886 年、砂本貞吉が米国メソジスト教会の協力を得て広島女学会を設立、3 年後校母 N・B・グーンズ女史を初代校長に迎える。1949 年、新制広島女学院大学英文学部、翌年短期大学部家政科を開学。幼稚園、中学・高等学校、大学・大学院をもつ総合学院として発展している。

**設置学校** 大学、高等学校、中学校

## 山梨英和学院 (山梨県甲府市、創立 1889 年)



**学校標語** 敬神・愛人・自修

**沿革** 山梨英和学院の歴史は、県下最初的女子教育機関として、カナダ・メソジスト派宣教師団（カナダ婦人宣教師団）と数名のキリスト者青年実業家との協力により設立された私立山梨英和女学校に始まる。以来、キリスト教信仰に基づく人間形成の学校教育を目的とし、幼稚園、中学、高校、大学（2002 年短大を発展的に改組転換）を設立し、2004 年には大学院を開設した。

**設置学校** 大学、高等学校、中学校、幼稚園(3園)

## 関西学院 (兵庫県西宮市、創立 1889 年)



**学校標語** Mastery for Service

**沿革** 1889 年、米国南メソジスト監督教会の宣教師ウォルター・ラッセル・ランバスによって神戸の東郊・原田村に創立される。1929 年に西宮市上ヶ原に移転。1995 年以降神戸三田、大阪梅田、東京丸の内と 4 つのキャンパスを設置。新しい「知」の拠点、豊かな「人格」形成の場として、スクールモットー “Mastery for Service”のもと、その固有のミッションを果たしている。

**設置学校** 大学、高等部、中学部、初等部(2008 年)

## 聖和大学 (兵庫県西宮市、創立 1880 年)



**学校標語** All for Christ  
3H(Head, Heart, Hand)

**沿革** 1880 年創立の神戸女子神学校（組合派）に始まり、ランバス記念伝道女学校と広島女学院校保母師範科を起源とするランバス女学院（メソジスト派）と 1941 年に合同して成立。この合同を Holy Union ととらえ、「聖和」と称している。その後、1950 年に短期大学となり、1964 年に大学が、1973 年に大学院が開設、1982 年から大学が男女共学となる。

**設置学校** 大学、短期大学部、幼稚園

## 東洋英和女学院 (東京都港区・神奈川県横浜市、創立 1884 年)



**学校標語** 敬神奉仕

**沿革** カナダ・メソジスト教会から派遣された婦人宣教師マーサ・J・カートメルによって東洋英和女学校が設立。聖書と礼拝と祈りを土台とし、キリスト教による女子教育を行っている。積極的に他者を尊重し思いやることのできる、知性と教養ある自立した女性を育てていくことを目指している。

**設置学校** 大学、高等部、中学部、小学部、幼稚園、大学付属 かえで幼稚園

## 静岡英和女学院 (静岡県静岡市、創立 1887 年)



**学校標語** 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい。

**沿革** 静岡県における最初的女子教育機関として、カナダ婦人ミッションと日本人側の協力によって創立された。キリスト教精神に基づく愛と奉仕の実践による教育を目指し、歴史の試練を乗り越えつつキリスト教教育の現代化を図ってきた。

**設置学校** 大学、高等学校、中学校

## 信仰と共に社会を生きて

## 池田守男

資生堂相談役  
東洋英和女学院理事長・院長



「サーバントリーダーシップ」「逆ピラミッド型組織」——この考え方は私が資生堂の社長に就任した際に、若き日より信条としていた「サービス アンド サクリファイス—奉仕と献身」の精神をいかに堅持しつつ、企業のトップとしてどうあるべきか、思い悩んだ末にたどりついた組織運営でした。従来の社長を頂点としたピラミッド型組織ではなく、お客様・社会を頂点とし、その次に販売第一線がくるという逆ピラミッド型組織を提唱しました。この組織では社長が一番下で全体を支えることになります。この逆ピラミッド型組織を運営する上で最も重要なことは、上の者が下の者を「支え」「奉仕する」というサーバントリーダーシップの精神です。週刊誌の見出しに「資生堂の社長は社員の召使だ」とあったのには驚きましたが、それはそれでいいという思いもありました。この考え方に行き着く根底には、やはり私のクリスチャンとしての歩みがあったと思います。

紆余曲折ありましたが、信仰者として今日まで歩んでこられたことを振り返ると、万感の思いが胸を去来します。私は遍路文化が息づく四国高松に生を受け、熱心な仏教徒であった祖父母に育てられましたので、幼い頃から宗教心が自然に養われたように思います。そうした中で、19歳のとき、西洋文化への憧れから通っていたアメリカ人宣教師のいる教会で、洗礼を受けました。

しかしながら、ほどなく日本人としてのキリスト者はどうあるべきか、自問自答を繰り返す

ようになりました。その折、友人に薦められて新渡戸稲造の『武士道』を読み、多様な価値観を受け入れ、その融合を求める新渡戸先生の考えと人間的優しさに大変深い感銘を受けました。なかでも「キリスト教の精神を日本の伝統文化・精神である武士道に接ぎ木する」という考え方に触れて悩みが解消しました。その後、私は東京神学大学へ進んで牧師になることを決めました。

大学4年時、1960年の春、世情は日米安保条約を巡り騒然としている折、私は牧師になるか、それとも社会に出るべきか迷っていました。その時も『武士道』を読み返し、多様な価値観と生き方を肯定する教えに改めて触れ、一度社会に出て幅広い経験を積むことを決心しました。

縁あって資生堂に入社し、秘書室に配属されました。秘書という役員を支える仕事を天職と思い、「生涯一秘書」という思いで過ごしておりましたので、2001年に社長に指名された時は、これまでとは全く異なる価値観にもとづいて行動しなければならないので随分悩みました。その2ヶ月前に私の所属する銀座教会で目にした新渡戸先生の書「Be Just and Fear not (正しくあれ、恐れるなかれ)」が胸をよぎり、引き受ける決意を固めました。そうして冒頭に述べました「サーバントリーダーシップ」「逆ピラミッド型組織」という運営組織にたどりつくわけです。

日々の仕事に感謝の気持ちで取り組み、与える喜びを感じることができれば、それが大きなエネルギーとなります。聖書に「与ふるは受くるより幸ひなり」という言葉があります。「与える」喜びは、「受ける」喜びよりいかに大きいか。私は「与える」喜びこそ、人間にとって無上の喜びであると信じて疑いません。

最近は教育再生会議の座長代理、東洋英和女学院の理事長・院長職など教育に携わる機会が多くなってきました。子ども達が夢を持てる真に豊かな社会を築くため、今後も全力を尽くしていきたいと思っています。

## キリスト教学校後継者養成 プロジェクト

嶋田 順好

副院長、学院宗教部長  
大学宗教主任



全国のキリスト教学校で、長いこと献身的に教育に取り組んできたベテランのキリスト者の先生方が、大量に定年を迎えつつあります。そのことがキリスト教学校にとっては、大きな課題となっています。なぜなら、空席となった教科の教師として、若く志のあるキリスト者の教師を迎えることが難しくなっているからです。この事態を放置すれば、いつの日か、キリスト教学校にキリスト者の先生がいなくなり、名前ばかりのキリスト教学校になってしまいます。

全国の103法人に及ぶプロテスタント系のキリスト教学校で組織されているキリスト教学校教育同盟（以下「同盟」）では、この事態を重く見て、昨年度の総会で「キリスト教学校教師養成プロジェクト」を発足させることを決議しました。今年度の総会でも「キリスト教学校の将来に向けて—キリスト教学校の担い手をどのようにして育成するか—」というシンポジウムが持たれました。このことから、すでにこの問題が、全国のキリスト教学校にとって、待ったなしの緊急の課題となっていることがよく分かります。

同盟は、このプロジェクトの担い手となるモデル校の一つとして、青山学院大学を指定しました。そのことを受け、本学では、宗教センターが中心となって具体的にこのプロジェクトを担っていくことになったのです。

すでに昨年十月と、今年の五月には、玉川聖学院中高部長の水口洋先生を講師としてお招きし、「教師という職業を考える—キリスト教学

校の可能性—」と題するガイダンスを開催しています。各回30名ほどのキリスト教教育に関心のある学生が集い、熱心に聴講し、時間が経過することを忘れるほど活発な質疑応答が持たれました。このことを通し、学生のなかにも、このプロジェクトに対する熱き期待があることを確認することができたことは幸いでした。

このガイダンスに参加した学生の中の有志は、すでに玉川聖学院、捜真学院、青山学院中等部、高等部で開催された学校見学会にも参加し、礼拝を共に守り、授業を参観し、身近にキリスト教学校の現在を体験することができました。さらに今年度からは、キリスト教学校の教育をよりよく理解するために、宗教センターが主催する全8回の研修会も実施されることになっています。

言うまでもなく、キリスト教学校の教育は、神の前における人格の完成を目指します。それを本学は教育方針とスクール・モットーで明確に言い表して、実践してきました。ある意味で、その内実が一番深く問われるのが、このプロジェクトにほかなりません。言い換えれば、青山学院の源流にたたずむスクーンメーカー、ソーパー、マクレイという宣教師の方々の祈りと遺志を、最も忠実に継承するプロジェクトということになります。

それだけに進路を思いめぐらしている高等部の皆さんには、キリスト教学校の教師になるというビジョンについて、一度は真剣に思いめぐらして欲しいと思うのです。また、すでに教師を志している大学生には、このプロジェクトのことをよく理解し、積極的に参加してほしいのです。

そもそもキリスト教学校の教師を養成することは、人間の思いを越えた業であり、神の導きなしには到底なしえないことです。それだけに志あるキリスト教学校の教師を輩出させてくださいとの切なる祈りをもって、謙遜に堅実にこのプロジェクトに取り組んでいきたいと願っています。

**おーる あおやま  
あーとてん 2007**

**伊藤勝啓**  
女子短期大学宗教主任



6月26日から7月6日まで行われた。テーマは「あなたがたは世の光である」で、神の天地創造における光、暗黒を克服された光としてのイエスの意義をあらためて表現してもらった。幼稚園から大学まで作品を出してもらった。全部で、96点に及んだ。

今年は比較的テーマにそった作品が多く見られ、企画にたずさわった者としては嬉しかった。とくに初等部生に力作があったと思われるが、それぞれの年代に見合った作品群ではなかったかと思われる。たくさんの人々がアート展に来て下さり、このことも嬉しいことのひとつであった。

青山学院は一貫教育を柱としてキリスト教教育と英語教育を立ててきた。また、青山学院は讃美歌学をはじめキリスト教音楽の方面で日本に貢献して来たことを忘れることができない。これに加えて芸術教育の一貫ということも組織として取り組んで良いものではないかと思われる。キリスト教から芸術を取り除くと、無味乾燥なものになってしまう。その意味では美術は重要な分野である。キリスト教の世界理解、人間理解等、様々な体験を象徴的に表出できるのは芸術の特権なのかもしれない。幼稚園から大学院までをもつ青山学院ではこの芸術教育・美術教育の分野で大きく貢献しうるものを持って

いる。大きくは日本の文化、日本の社会に訴えるものをもっているのではないだろうか。

また作品の展示と同時に7月6日（金）には女子短期大学学長前之園幸一郎博士による『『聖母子像』におけるこどもへのまなざし』という講演が行われた。先生がこれまで胸中に温めてこられたことを映像によりながら、わかりやすく話して下さった。聖母子像の歴史の変遷の中で転換点を示すものとして、フラ・フィリッポ・リッピの名前が挙げられた。大人を小さくした子ども観ではなく、子どもを子どもとして見る子ども観が聖母子像の描き方に表されたことは、神学的にも意義深いものがある。キリスト教史上、カルケドンの公会議において主イエス・キリストの人性と神性の結合の仕方について「混ぜず、変せず、分離されず、分割されずに」結合されている、と宣言されたが、あらためてその意義の重大さが思い出される。子どもの顔をした幼な子イエスの中に東方の博士たちが神の子イエスを礼拝したことを想起させられる。この講演に目を開かせられたのは筆者だけではないであろう。映像を使うにあたり、御協力いただいた短大子ども学科の浅見均先生と家政学科の奥村健一先生に感謝する次第である。

最後に、このアート展およびフォーラムを体験した学生たちの感想の中に、同世代の人々がこうした表現をできるのは素晴らしい、という声がいくつも聞かれた。法外の喜びである。芸術的なものと宗教的なものが接点において相互指示的な性格を持っていることの証左であろう。

なお、展示のために献身的労苦を惜しまれなかった宗教センターの職員の皆さんに感謝の意を表する次第です。

『現場からの道——世界各地の現場で、痛み、悲しみ、喜びを分かち合う——』

阿蘇敏文（新教出版社、2005年）

堀 一人

高等部教諭

行き付けの本屋の棚にたまたま見かけたこの本。タイトルがなぜかとても気になって思わず衝動買いしてしまったのが、私のこの本との出会いでした。『現場からの道』ってどういう意味だろう。「現場」って何のこと。でも読み進むにつれ、提起されている問題のスケールの大きさと重要性を多くの方々に知っていただきたいと願うようになり、ここに推薦をさせていただきました。

この本には7つの「現場」が紹介されています。「農業」の現場、「反原発」の現場、「フィリピン」の現場、「移住労働者」との現場、「韓国」の現場、「JFC (Japanese-Filipino Children)」の現場、そして「環太平洋」の現場です。それらにどういうきっかけで著者が関わることになったのか、何が問題なのか、どんな取り組みをしているのか、そこで出会った仲間との対談を盛り込んで詳しく述べられています。

私を含め多くの人たちにとって、こうした「現場」は普段意識の奥へ追いやられてはいないでしょうか。しかし、それは私たちが目をつむってはいけぬ重要な課題なのだということを、大変ユニークな仕方での本は私たち読者に気づかせてくれます。

著者の阿蘇敏文さんは、青山学院大学神学科のご出身で、現在は日本キリスト教団百人町教会の担任牧師をなさりながら、河合塾コスモ（高卒認定試験および大学受験予備校）では農園ゼミを担当し、学生とともに無農薬有機栽培を行っておられます。

とにかく、この本を読んで驚かされるのは、阿蘇さんの人間関係の豊かさです。それも、その広がりには日本だけに止まりません。特に、フィリピンではTVやラジオにた



びたび出演されており、国会議員も面会に来られるほど。まさにレバレンド・アソ（阿蘇牧師）を知らない人はいないくらい有名なのだそうです。（このたび7月フィリピンで、この本の英語訳が出版されました。）

私は、それほどまでに人を惹きつける阿蘇さんとはどんな方なのか知りたくて、この夏、百人町教会を訪れました。また、先生が茨城に作っておられる田んぼの稲刈りや収穫感謝にもお招きを頂き、参加しました。

コスモの学生や、農家、マスコミ、芸術家、クルド人難民の申請をしている家族、在日フィリピン人のサポートをしているフィリピン人活動家など100人程の人たちが集まったにぎやかな会でしたが、自然からとれたおいしいご馳走もいろんな「現場」の人々との出会いもすばらしい一言でした。

いつか「現場からの道」の先に、世界中の人々がともに自然の恵みを分かち合う楽しい食卓が囲めたなら。それにしても、牧者として心や魂を養うだけでなく、皆の「命」や「生活」までも守ろうと、本当の安心と救いを勝ち取ろうと日々現場を奔走されている阿蘇先生の生き方は、特に若い方々には大変示唆的だと思います。この書を通して良い出会いがあれば願っています。

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料紹介第20回は、来日メソヂスト宣教師の本国宣教局本部への報告書・私的書簡の紹介(続き)です。今回は青山学院初代院長マクレイや、コレル、ドレーパー等初期の宣教師達が日本・日本人をどう見ていたかを彼らの書簡から見て行きましょう。

まず Robert Samuel Maclay。マクレイは大方の皆様が御存知のように、青山学院初代総理(院長)として、その建学の基礎をつくった人物です。(Maclayの小伝については『青山学報』127号参照)彼は1848年、24歳にして、鎖国が解かれたばかりの清国への最初の宣教師の一人としてフーチョウ(福州)に赴きました。爾來四半世紀に及ぶ中国伝道の艱難辛苦の歳月の後、1873年、北米メソヂスト教会日本派遣宣教師第1号として横浜の土を踏むのです。以後横浜に於ける10年間の伝道を経て、1883年東京青山に東京英和学校を開校、その初代総理(院長)になったのです。彼の書簡は1885～88年の10通が資料センターに保管されています。その各書簡には、日本宣教の責任者として彼が接した一般の日本人の教養の質の高さと、その外来文化に対する関心——彼の言葉に従えば異常な程の関心——について、繰り返して述べられていて、このことは彼の25年に亘る中国での体験からすれば驚くべきことでした。彼はこれを神の備え給うた摂理と解し、伝道と教育



Robert Samuel Maclay



Mr. & Mrs. Maclay

に励んだのでした。「日本に送る宣教師は、必ず高等教育を受け、教養と学識を兼ね備えた者でなければならない」と、これは彼が機会あるごとに宣教局に書き送った言葉でした。マクレイこそは真に日本を理解し、日本人を

愛した宣教師であったといえるでしょう。日本の宣教は日本人の伝道者に委ねるべきである、というのが彼の確信でありました。1888年ニューヨークのメソヂスト監督教会総会に於て、日本メソヂスト教会の合同・独立を提議したのもマクレイでした。これが後に1907年、日本メソヂスト教会成立の基盤となったのです。

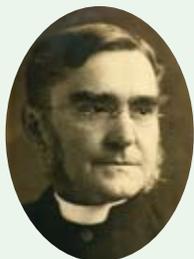
マクレイの4男 George Maclay は、父のあとをついで日本伝道を志していましたが、不幸にも若くして夭逝。マクレイが息子に代るべき日本伝道者を求めていることを知り、シラキュース大学同窓の親友ドレーパー(Gideon Frank Draper)がジョージの身代わりとして日本伝道を志願し、1880年3月、新婚の妻を伴って来日しました。横浜の美會神学校(青山学院の前身のひとつ・1879年開校)をはじめ、約60年に及ぶ期間に、横浜・函館・弘前・名古屋・東京など各地の伝道に奔走し、晩年は青山学院で教えました。彼は日本各地の伝道に際して常にオルガンを携えていました。1889年3月22日附の宣教局総幹事 Leonard 宛の書簡には「早速オルガンを送ってくれて有難う。無事に着きました」とあります。約120年前のこのオルガンは現在相模原キャンパス資料センターに保管されています。本学の唐津東流名誉教授のお世話で国立音楽大学の先生に修復を依頼し、美しい讃美歌を現在も奏でています。(なお、『青山学報』No.54にこのオルガンが写真と共に紹介されています。)上記の書簡で Draper は初期の青山学院の様子を詳細に報告しています。「青山学院のフィランダー・スミス神学校の現状は、優秀な神学教授がいないので危機的である。一刻も早く有力な神学教授を送ってほしい」と懇えています。また彼は通算5年間を函館・札幌の宣教に関わっていましたが、北海道伝道及びその開拓状況を詳細に報告しています。「ここ北海道は日本のどの地域より人口密度が薄く、南の地方から毎年移住者が沢山やって来る。その意



Gideon Frank Draper

味では前途有望であるが、プレスビテリアンと聖公会の活動に比べてメソヂストが十分に活動するためには、少くとも更に4人の宣教師が必要である。また佛教が盛んでお寺の新設が続き、このままではキリスト教の機会が少なくなる。宣教局の良き配慮を期待する」と懇えています。

次に Irvin H. Correll。コレルはメソヂスト宣教師第一陣のひとりとして1873年マクレイと共に来日。横浜を中心に関東一円に伝道し、青山学院の前身のひとつ美會神学校の設立に盡し、1899年まで東京英和学校で教えました。「1888年から90年まで東京英和学校の校長を務めるが、これは学校の正史には記載されていない。このような経験は不幸なことであつて、ミッションの展開の仕方に次第に不満を募らせる」と『来日メソヂスト宣教師事典』には記されていますが、これは恐らく“元良事件”に関連してのことであろうと思われます。元良勇次郎は当時新進気鋭の学者で、本多庸一米国留学不在の間東京英和学校々主兼教授をつとめていましたが、彼が招いて講演をさせた生物学者眞作佳吉が進化論を説いて「創世記の万物創造は旧説」であると述べたことが宣教師の間で物議を醸し、彼を招聘した元良に攻撃が集中し、挙句には元良の辞任が問題となりました。この元良事件に関する最も詳細な記述が1889年3月11日付のヴェイル (Milton Smith Vail) の Merrill 監督宛の報告書に述べられています。ヴェイルは1879年来日した宣教師 (1900年帰国) で、滞日中殆どの期間を青山学院で教え、文学部長、神学部長をつとめていました。この Vail の記述で元良事件の全体像はほぼ明らかですが、この件に関して最も強硬にミッションの建学の本義を主張したのがコレルでした。彼の宣教局本部への報告書のうち23通が当資料センターに残されていますが、例えば1889年4月15日付の総主事 Leonard 宛の書簡ではめんめん



Irvin H. Correll

と元良事件について述べられていて「ここ (青山学院) での私の運営管理に疑問を呈するような手紙が既にあなたに届いていると聞いているが」として元良を支持する学生達の騒ぎを述べ、「如何なる教授と雖もその教えるところが学校の建てられた目的に対して有害な教師は働かない」と言い切っています。こうしてコレルは強硬に元良を“切つて”「悪の根源を取除く」ことを主張したのでした。然し間もなく定期休暇で米国に帰り、宣教局は再び彼を青山学院に戻さず、次に彼が任命されたのは長崎・熊本でした。熊本では教会を建て、大島・琉球への伝道も計画し、大きな活躍をしたことが報告書にも表われています。1894年10月1日付の Leonard 宛報告書では次のように書いています。「私は教区の巡回に出かける。人々は戦争 (日清戦争) のことで大層熱狂している。彼らはどんなことがあつてもこの戦争に勝つと信じている。土曜夕方と日曜2回説教をする。神の望み給う熱心な聴衆。どんな問題でも戦争に関係ないことには彼らの興味をひくことは不可能だが、それは私の出番ではなからう」。コレルは日本語が大変達者で説教も流暢な日本語で行っていましたが「宣教師達はまず日本語習得に専念すべきである」と報告書にも書いています (1892.8.23・長崎)。長崎では鎮西学院の校長をつとめていましたが、「Bishop Ninde の協力がないことに失望した」(1894.10.1) と言っているように、曾ての元良問題以来、次第にメソヂスト宣教局との意思疎通が悪くなったことが報告書や書簡にもみえて来ています。やがて定期休暇で帰米した時、メソヂスト教会を脱退してエписコパル教会 (聖公会) に転じます。そして聖公会の宣教師として奈良、津、東京に赴任しますが、奈良では大変人望が篤かったようで、今日の奈良聖公会ではコレルを初期の伝道者として尊敬し、記念樹も大切に守っています。



Milton Smith Vail

なお、余談になりますが、コレル夫妻は長崎在任中、グラバー夫妻と親密な交遊がありました。グラバー夫妻の縁筋に当る野田和子氏の研究によれば、コレル夫人の長崎での見聞を聞いた夫人の実弟 J. S. Long がそれを小説化し、そのロンドンでの戯曲公演をたまたま見たプッチーニがそれを歌劇化したものが「マダム・バタフライ (蝶々夫人)」ということです。

と元良事件について述べられていて「ここ (青山学院) での私の運営管理に疑問を呈するような手紙が既にあなたに届いていると聞いているが」として元良を支持する学生達の騒ぎを述べ、「如何なる教授と雖もその教えるところが学校の建てられた目的に対して有害な教師は働かない」と言い切っています。こうしてコレルは強硬に元良を“切つて”「悪の根源を取除く」ことを主張したのでした。然し間もなく定期休暇で米国に帰り、宣教局は再び彼を青山学院に戻さず、次に彼が任命されたのは長崎・熊本でした。熊本では教会を建て、大島・琉球への伝道も計画し、大きな活躍をしたことが報告書にも表われています。1894年10月1日付の Leonard 宛報告書では次のように書いています。「私は教区の巡回に出かける。人々は戦争 (日清戦争) のことで大層熱狂している。彼らはどんなことがあつてもこの戦争に勝つと信じている。土曜夕方と日曜2回説教をする。神の望み給う熱心な聴衆。どんな問題でも戦争に関係ないことには彼らの興味をひくことは不可能だが、それは私の出番ではなからう」。コレルは日本語が大変達者で説教も流暢な日本語で行っていましたが「宣教師達はまず日本語習得に専念すべきである」と報告書にも書いています (1892.8.23・長崎)。長崎では鎮西学院の校長をつとめていましたが、「Bishop Ninde の協力がないことに失望した」(1894.10.1) と言っているように、曾ての元良問題以来、次第にメソヂスト宣教局との意思疎通が悪くなったことが報告書や書簡にもみえて来ています。やがて定期休暇で帰米した時、メソヂスト教会を脱退してエписコパル教会 (聖公会) に転じます。そして聖公会の宣教師として奈良、津、東京に赴任しますが、奈良では大変人望が篤かったようで、今日の奈良聖公会ではコレルを初期の伝道者として尊敬し、記念樹も大切に守っています。

なお、余談になりますが、コレル夫妻は長崎在任中、グラバー夫妻と親密な交遊がありました。グラバー夫妻の縁筋に当る野田和子氏の研究によれば、コレル夫人の長崎での見聞を聞いた夫人の実弟 J. S. Long がそれを小説化し、そのロンドンでの戯曲公演をたまたま見たプッチーニがそれを歌劇化したものが「マダム・バタフライ (蝶々夫人)」ということです。

## カトリック戸塚教会

増田為久子

中等部養護教諭

私の所属しているカトリック戸塚教会は、横浜の戸塚駅から、徒歩5分位にある小高い丘の上にあります。聖ペトロを保護の聖人とし、今年で57年目となります。1998年に新教会が献堂され、その折、地下にクレプタ（墓所）が創設され、亡くなった方々への静かな祈りの場所となっています。

信徒数は800人ほどで、活動も活発です。教会内だけでなく、如何に地域の愛の共同体として機能していくかを課題として手話ミサを行ったり、チャリティコンサートを行ったりしています。最近では、近くにある日立製作所の方々や、明治学院大学のハンドベル部の方々によるコンサートが開かれました。

主任司祭はアルフレッド・バーク神父様で、70代半ばのとてもやさしい方です。カトリックでは、ミサの最中お互いの親睦の為、挨拶をかわす時間があるのですが、普通隣同士に並んだ人と軽くお辞儀をする程度なのですが、ここ戸塚教会では、それまで整然としていた会堂がぐちゃぐちゃに成るほど、皆がたくさんの人と握手をする為に飛び回ります。バーク神父様も例外ではなく、1人でも多くの信徒と握手をしようと長い式服の裾を翻して会堂中を飛び回るので、先唱者泣かせです。



私にとってここ戸塚教会は、人生において、結婚やら、主人の転勤やらで6箇所目の教会ですが、こんな光景の教会は他にはあり



ませんでした。普段の神父様はお年のわりに大変お元気で、大きなオートバイに乗ってどこにでもいらっしゃいます。信徒宅訪問もお好きで、不意にいらっしゃるので留守の時はちゃんとメッセージを残しておいてくださっています。こんな神父様のフレンドリーな雰囲気がそのままこの戸塚教会の雰囲気になっているように感じます。皆様もお近くにいらっしゃった折には、ぜひ、教会の中をのぞいてみて下さい。

私は、中・高時代をカトリックの学校に通い、大学は聖公会の学校に通い、仕事はこの青山学院でさせていただいて、キリスト教のいろいろな教派に接しておりますが、礼拝の方法が少し違う以外には、同じ神様を信仰しているという思いのほうが強く全然違和感を感じません。今、この環境で仕事をさせていただいていることを、深く神に感謝したいと思っております。

### <ミサの時間>

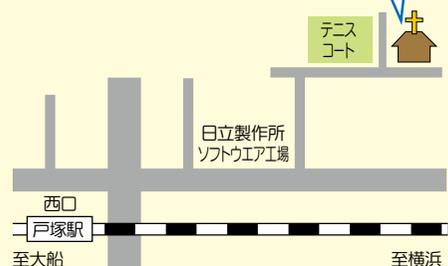
日曜日・・・7:30 / 9:30

土曜日・・・9:30

平日・・・7:00

### カトリック戸塚教会

〒244-0002 神奈川県横浜市戸塚区矢部町 641  
TEL 045-881-8882 / FAX 045-865-2026  
<http://www.interq.or.jp/earth/totsuka/>



## 幼稚園 より

2学期は年長組の軽井沢キャンプ(2泊3日)で始まりました。秋の季節を子どもたちの身体全体で感じてほしいと願っています。

### 運動会

10月16日(火)

幼稚園の園庭で行われます。普段の遊びの中から競技種目が生まれます。保護者の方と一緒に力いっぱい体を動かし、秋の1日を楽しみます。

### 秋の遠足

10月24日(水)

木の実を拾ったり、調布のお芋畑に出かけお芋を掘って、秋の実りを感じる時期です。

### 収穫感謝祭

11月14日(水)

園庭で採れた柿・みかん・銀杏、家から持ち寄った果物、遠足で採ったお芋も飾り、全員で感謝の礼拝を持ちます。

### アドヴェントⅠ

11月22日(木)

幼稚園はこの日からアドヴェントに入ります。献金箱、アドヴェントカレンダー、子どもたちがそれぞれ手作りしたものです。アドヴェント礼拝ではお母様方のハンドベルの演奏があります。

### アドヴェントⅡ

11月30日(金)

クリスマスを心待ちにしている子どもたちの様子が見られます。礼拝のお話がひとりひとりの心に響いていくことを願います。

(幼稚園教諭 多々内三恵子)

## 初等部 より

9月に、初等部新校舎建築の工事がすべて終わりました。4年半の工事でしたが、無事に終わったことは感謝です。11月16日(金)には初等部創立70周年の記念式典を初等部米山記念礼拝堂で行います。

### 聖書週間記念礼拝

10月17日(水)

この礼拝では、聖書の御言葉が私たちの生活にとっていかに大事かを思い、礼拝を守ります。

### となり人を覚える礼拝

11月9日(金)

初等部が支えているフィリピンの16名のチャイルド(里子)を覚えて、礼拝を守ります。3月にフィリピンを訪問した児童によるフィリピ

ンの報告もいたします。

### 創立記念礼拝

11月15日(木)

青山学院創立133周年を覚え礼拝を守ります。今年度は特に初等部創立70周年のとして礼拝を守ります。

(宗教主任 小澤淳一)

## 中等部 より

### 緑蔭キャンプ

7月21日(土)～7月23日(月)

今年も高等部の追分寮で聖書の学びやナイトハイクを通して交わりを深めました。22日(日)の主日礼拝を日本基督教団追分教会で守ることができて感謝でした。

### 高中部合同研修会

8月31日(金)

講師:池田守男氏(東洋英和女学院理事長・院長)

### CF(クリスチャン・フェローシップ)活動

#### 一校内清掃

9月1日(土)

校内をきれいにして新学期を気持ちよく迎えます。

### 創立記念礼拝

11月9日(金)

説教:浅原一泰先生(日本基督教団高幡教会牧師)  
浅原先生は中等部31期生です。

### クリスマス・ページェント

12月18日(火)

生徒、教職員、保護者がひとつになってイエス様の誕生をお祝いします。

(宗教主任 西田恵一郎)

## 高等部 より

### グリーンキャンプ

去る8月15日(水)～17日(金)にアジア学

院にてグリーンキャンプを行いました。アジア学院(栃木県西那須野)は農村指導者養成専門学校で、アジア各国からの留学生が30人程学んでいます。ここで私たちも畑仕事、養鶏、養豚等食べ物にかかわる作業を行い、大変良い経験をさせていただきました。同時に、私達の聖書の学び、また親睦を行うことが出来ました。

参加者は教師5名、OB3名、生徒29名。

### 伝道週間礼拝

10月22日(月)～26日(金)は秋の伝道週間です。講師は梅ヶ丘教会牧師・塩谷直也氏(23、

26日)、また東京バプテスト教会牧師・Chris McCottry 師〔22日〕です。それぞれ個性豊かな先生ですので、興味深い伝道礼拝になることと思います。

## 創立記念礼拝

今年度の高等部での創立記念礼拝は11月19日(月)です。この日は毎年、講師の先生(院長、卒業生の牧師の方々)を招いて礼拝を持っております。青山学院の教育方針等を創立記念礼拝の中で学んでいます。

(宗教主任 坂上三男)

## 女子短大より

### ランチタイムコンサート

10月18日(木) 12:30～13:20

青山学院講堂

### 青山祭開会礼拝

11月3日(土・祝) 9:30～

女子短期大学礼拝堂

### 青山祭チャペルコンサート

11月3日(土・祝) 13:00～15:00(予定)

女子短期大学礼拝堂

演奏:短大聖歌隊、短大ハンドベルクワイア、ゴスペル、大学第二部聖歌隊

### 青山祭 天使の喫茶

11月3日(土・祝)、4日(日)

チャリティー喫茶室および展示

### 創立記念礼拝

11月14日(水) 12:30～13:00

説教 山本与志春先生(中等部部长)

いずれも、どなたでもご参加いただけます。

\*後期が始まった。2年生にとっては学生生活もあと僅かでオシマイ。だからこそ、終わりの日の到来を常に念頭におきつつ、師弟ともども真剣勝負で勉強だ!つとめいそしめ、花の上の、きらめく露の、消えぬまに…。

(宗教委員 西願広望)

## 大学より

### ランチタイム・コンサート

相模原;10月25日(木) 作井清雅子氏

青山;11月14日(水) 身崎真理子氏

昼休みのひと時、大学オルガニストによるパイプオルガンの演奏に耳を傾けてみませんか。どなたでも入場できます。

### チャペル・ウィーク

10月15日(月)～20日(土)

各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をして頂きます。

### 第二部オータム・カレッジ

11月16日(金)～17日(土)

東京スポーツ文化館

講師 塩谷直也氏(梅ヶ丘教会牧師)

(宗教センター事務局 平野修一)

## 本部より

### Art クリスマス Aoyama

11月27日(火)～12月21日(金)

短大ギャラリー他

クリスマス为主题にした幼稚園児から大学生までの作品を展示します。

### クリスマス・ツリー点火祭

11月30日(金) 相模原16:30、青山17:20  
全学院の礼拝として行います。ご参加下さい。

(宗教センター事務局 平野修一)

No.92号 お詫びと訂正

・9頁 右上 貴田かおり → 貴田香織

深くお詫びし、訂正いたします。

## 編集後記

新教育基本法が制定され、教育三法も国会を通過した。多くのキリスト教学校ではこれに危機感を覚えている。国家が容易に私学教育の教育内容にも介入できるようになったからだ。そんななかでチャールズ・ウェスレー生誕300年を迎え、数年後には日本プロテスタント宣教開始150年を迎えようとしている。今こそ自らの原点に立ち返り、青山学院の教育理念を深く理解し、再確認するときである。本紙がその一助になればと思う。

多忙な中執筆して頂いた諸先生方には心より感謝を申し上げます。今号より、新しくシリーズ「地の塩、世の光」のコーナーを設け、各界で活躍されているキリスト者の「証し」を掲載することにしました。本紙が単なる活動報告書や情報提供にとどまらず、信仰的修養の場、一人ひとりが建学の精神を確認する場となればと願ってやまない。次号以降もご期待のほどを。(伊藤)

## Wesley Hall News 第93号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 嶋田順好  
東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)  
URL.<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>  
E-mail.[agcac@jm.aoyama.ac.jp](mailto:agcac@jm.aoyama.ac.jp)  
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会  
印刷 万全社